

## 卷 頭 言

### 加速器の本の出版を！



**小方 厚\***  
Atsushi OGATA\*

私事だが、物理から音楽を見た本を K 社から出版し、案外売れた。ところが家入孝夫さん（第 8 巻第 2 号に追悼文）に、「遊びの本ばかりでなく、ホームページ（HP）のプラズマ加速の本をちゃんと出版しなさい」と、例のにこにこ顔でお説教されてしまった。もう勉強したくないと抗弁したが、音楽という「遊び」に関して、ずっとオーケストラでチェロを弾いていたあちらが先輩で、どうも分が悪い。

家入さんが急逝され、このことが思い出された。HP の本とは、ビーム物理研究会の HP にある講義ノートである。無料でダウンロードできるのだが、家入さんは、図書館に無いのがいけないという。

誤りを修正し、最近の進歩を盛り込むことにして、先の K 社（意外に学術書も手がけている）に出版を打診したが、いつまでたっても返事がない。売れない本だから仕方あるまい... というわけで、次に O 大学出版会に当たった。A5 版 300 ページ程度であれば、著者が 20 万円程度負担するという前提で、オンデマンド出版と電子書籍出版の併用で引き受けると言う（ちなみに、教科書・教養書では、著者負担はないらしい）。

オンデマンド出版では注文を受けてから印刷製本し、電子書籍では読者にネットから有料ダウンロードしてもらう。著者自身が組版して pdf ファイル化することが条件である。学会のプロシーディングスを作るセンスだ。図書館用には印刷製本し、個人様には安価な pdf を、という作戦である。

会員の皆様もそれぞれの分野で学術書を出版されてはいかがだろうか。亀井・木原両先生の 1993 年の名著（現在は絶版？）にお世話になった向きも多いはずだが、もっと狭く深い内容の本が多数存在したほうが良い。本が多ければ若い人も加速器に興味を持つというものだ。私自身は中年でこの分野に参入したが、沢山の加速器の本からあれこれ拾い読みできたら確実に能率が上がるのに、と思った。

それに自分の本が出版されたときの気分は悪くない！

残念ながら学術書の印税で稼ぐというのは夢のまた夢だ。持ち出しでも良いと腹をくくってしまえば、オンデマンド・プラス・ダウンロードという方式は悪くない。20 万円という金額は、どこの出版社でも似たようなものだろう。この程度なら研究費から捻出する才覚をお持ちの方もあろうが、学会として補助することも（無責任な発言だが）可能に思える。

科研費には研究成果公開促進費という項目があるが、金のかかる古典的な出版形態が前提である。それが悪いとは言わないが、現在論文は pdf で流通している。この形態が学術書に波及するのは時間の問題だろう。抵抗を感じられる方もおられると思うが、シッフ「量子力学」、ジャクソン「古典電磁気学」、チェン「プラズマ物理入門」等の古今の名著はもうフリー・ダウンロード出来る。ただし怪しいサイトも多く、著作権の問題も不明なので、自己責任で試みていただきたい。

最初から pdf が前提なら、書籍内部の図や式や章・節などの相互参照は自由自在である。カラー画像はおろか、必要ならオーディオファイル、ビデオファイルの挿入や、引用文献からそれをダウンロードできるサイトに直接リンクすることも（現段階ではかなり手がかかるらしいが）可能であろう。このあたりは、紙媒体によるオンデマンド出版との両立では問題になるかもしれない。

もちろん新書版の平易な啓蒙書なら書店に平積みされ、著者は印税で潤うという可能性がある。出版の意義は学術書に勝るとも劣ることはない。どなたか加速器に関連するテーマで検討されてはいかがだろうか。

\* 大阪大学産業科学研究所